

奄美群島のトンボ全種



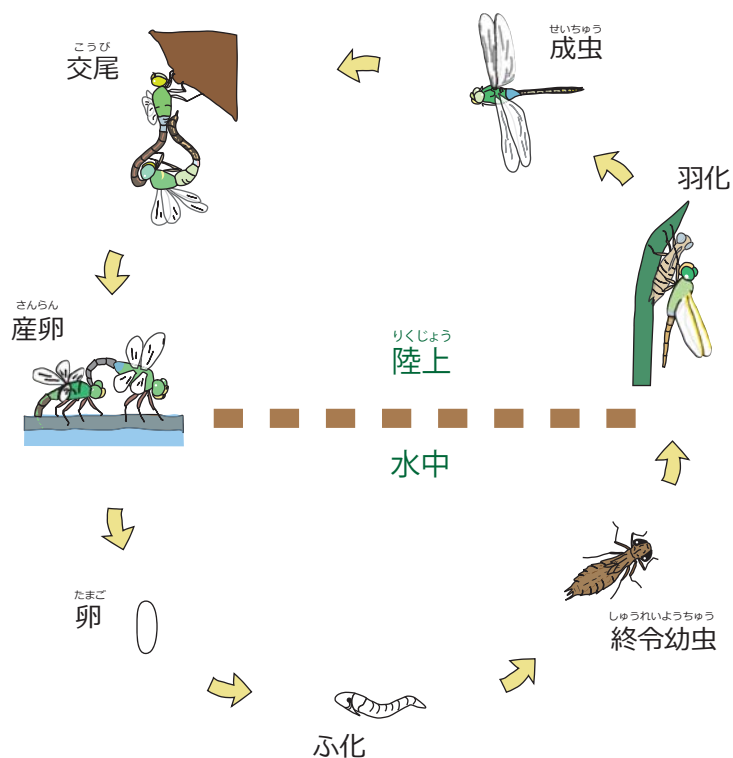
「ゆうやけこやけの赤トンボ〜♪」と身近な童謡の中でも出てくるトンボ。ゆうゆうと空を飛び交う姿は、あこがれの存在です。虫取り網をもって追いかけたことがある人も多いのではないのでしょうか。日本には約 200 種類のトンボが生息していて、奄美群島には 56 種類のトンボが記録されています。トンボは種類によって、ため池や川のように流れがある場所など、住んでいる場所が違います。わきやあまみ 22 では、奄美群島にすむトンボの全種類を住んでいる場所とともに紹介します。

トンボのくらし

奄美群島の多くのトンボは成虫が春から秋にかけて発生し、冬はヤゴ（幼虫）で水中で生活しています。ヤゴが羽化するまで期間は、数か月から1年以上など種類によってさまざまですが、トンボの一生から見ると、成虫でいる期間よりもヤゴの期間が長いのです。

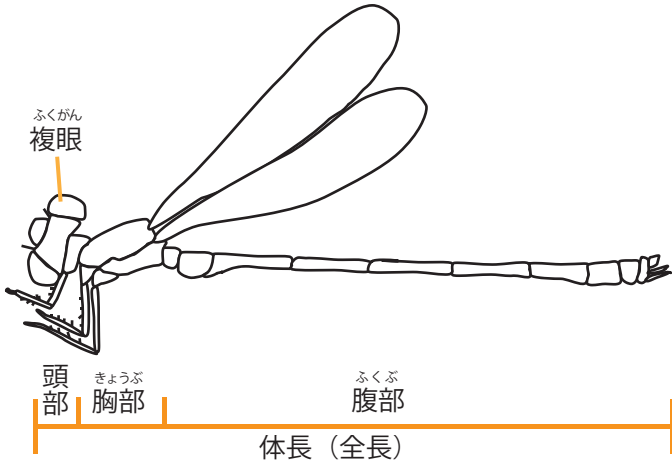
成長したヤゴは水の中から出てきて羽化し、成虫になります。成熟するとオスとメスが交尾をして、メスは水中や植物、砂の中などに卵を産みます。

ギンヤンマの一生

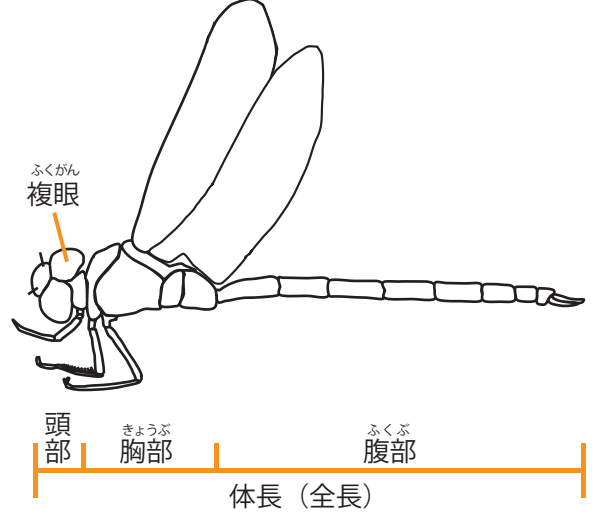


トンボのからだ

きんしあもく はね
均翅亜目・・・前後の翅が同じかたち。



ふきんしあもく はね
不均翅亜目・・・前後の翅がちがうかたち。



トンボを守ろう！

●田んぼやため池などの環境を守ろう。

トンボの卵やヤゴが生きていくためには、水辺の環境が必要
です。また、ヤゴは羽化後しばらくは翅や体が柔らかく敵に
ねらわれやすいため、ほとんどの種類は水辺近くの草地や森
の周辺などで暮らし、体が固くなってすばやく飛べるよう
になると水辺にもどってきます。そのため水辺だけでなく、
周辺の環境を整えることも重要です。



▲トンボが卵を産めるよう、草を取り除き水面を広げるための作業。

●水をきれいに。

洗剤でお皿を洗った水など生活で出た水は浄化槽（水の汚れをとる機械）や下水道を通して処理をするようにしましょう。また、農薬をたくさん使いすぎると土を通して池や川を汚し、ヤゴが生きていくことができません。

●外来生物は放さない。

コイやアメリカザリガニなど本来、奄美群島にいなかった外来の生きものが卵やヤゴを食べてしまうことがあります。絶対に放さないようにしましょう。



●トンボを観察をしよう。

トンボを守るためには、それぞれのトンボがどのような場所にすんでいるのか、減っているのか増えているのか調べる必要があります。定期的に観察・記録することを「モニタリング」と言います。地域のイベントがあったら参加しましょう。

奄美群島のトンボ全種リスト

リストの番号と写真の番号はリンクしています。

番号

名前

写真

○: 写真あり ※イニシャルは写真を提供して下さった方です。
 X: 写真なし Y.K: 山室一樹氏 M.K: 松比良邦彦氏 T.H: 鳥飼久裕氏
 O.T: 桶田太一氏 K.K: 金井賢一氏

生息・記録のある所

- ・大島: 奄美大島
 - ・加: 加計呂麻島
 - ・請: 請島
 - ・与路: 与路島
 - ・喜: 喜界島
 - ・徳: 徳之島
 - ・沖: 沖永良部島
 - ・与論: 与論島
- の8島です。

1 **リュウキュウハグロトンボ**

大島・加・請・与路・徳 ○ Y.K 58~67 3~12




翅が黒く、ひらひらと飛ぶ。オスは体が緑色で、成熟するとすると翅の付け根の半部分が青白く輝く。メスはかっ色で翅に白い紋がある。

大きさ mm (ミリメートル) で表しています。

成虫が見られる月

特徴・その他

1	リュウキュウハグロトンボ	2	アマミヤンマ	3	ヒメミルヤンマ
大島・加・請・与路・徳 ○ Y.K 58~67 3~12		大島 ○ O.T 65~70 6~10		大島・加・請・徳 ○ Y.K 61~70 6~10	
翅が黒く、ひらひらと飛ぶ。オスは体が緑色で、成熟するとすると翅の付け根の半部分が青白く輝く。メスはかっ色で翅に白い紋がある。		奄美大島の固有亜種で、別亜種イシガキヤンマが西表島にいる。朝夕の薄暗い時間に活動する。		アマミヤンマに似るが、もようの黄色みが強い。朝夕などの薄暗い時間に活動する。ミルヤンマの奄美固有亜種。	
4	チビサナエ	5	アマミサナエ	6	オニヤンマ
大島・加・請・徳 ○ Y.K 34~40 6~9		大島・加・請・与路 ○ M.K 57~64 3~7		大島・加・請 ○ Y.K 82~114 7~10	
真夏に多い。日本のサナエトンボの中ではいちばん小さい。		中琉球の固有種で、別亜種オキナワサナエが沖縄諸島にいる。		日本で一番大きなトンボ。メスの腹部の先には長い突起があり目立つ。	
7	ミナミヤンマ	8	リュウキュウトンボ	9	アマミトゲオトンボ
大島・加・請・与路・徳 ○ Y.K 70~88 5~9		大島 ○ O.T 51~62 6~9		大島・加・請・与路 ○ Y.K 36~48 3~7	
メスの翅には特徴的な模様がある。6月頃の夕方に水辺の上空を群れ飛ぶ姿が見られる。		メスの方が大きくなる。光が当たると胸部が金属のようにキラキラと光る。奄美大島と沖繩島とトカラ列島の中之島のみですむ。		森に囲まれた川の源流や水がたたっているような湿った斜面にすむ。奄美群島にしかないトンボはこの種だけ。	
10	アマミルリモントンボ	11	タイワンシオカラトンボ	12	オオシオカラトンボ
大島・加・請・与路・徳 ○ Y.K 44~55 4~11		大島・加・請・沖 ○ M.K 42~51 5~10		与論以外の全島 ○ Y.K 49~61 5~10	
オスメスとも未熟なうちは黒い体に黄色のもようがあるが、成熟するとオスのもようは青色に、メスは淡い緑色になる。		わき水が流れて湿った場所や、水がしみ出す林内の水たまりなどにすむ。オオシオカラトンボに似るが、オスの後ろ翅の付け根はかっ色。		林内にもかいこん地にもいる。成熟したオスは全身が青白く粉をふいたようになり、後ろ翅の付け根も青白くなる。	
13	トクノシマトゲオトンボ	14	ギンヤンマ	15	クロスジギンヤンマ
徳 ○ Y.K 33~48 3~7		全島 ○ O.T 65~84 4~11		大島 ○ M.K 64~87 4~6	
山の中のやや薄暗く細い川にすむ。アマミトゲオトンボの亜種とされるが、ほとんど違いはない。		明るい池や沼、川の上流などにすむ。頭部・胸部はオスメスともに黄緑色で、オスは腹部の付け根の上が青くなる。昼間活発に飛ぶ。		木陰の多い水草のはえる池や沼にすむ。胸部の横側に2本の黒いスジが入る。オスメスともに腹部に青い色が入る。	
16	オオギンヤンマ	17	リュウキュウギンヤンマ	18	タイワンウチヤンマ
与論以外の全島 ○ O.T 75~90 5~11		全島 ○ O.T 82~99 年中		加 以外の全島 ○ Y.K 70~81 6~10	
リュウキュウギンヤンマに似るが少し小さい。オスメスとも腹部の付け根の上が水色をしている。奄美では冬越しが確認されていない。		日本のギンヤンマの仲間では最も大きい。オスメスとも腹部の付け根の上が水色をしている。奄美では5~10月にかけて最もよく見られる。		ガマなどの背の高い水草のはえる池や沼にすむ。サナエトンボの仲間。腹部の先に名前の由来になったウチワ型の突起がある。	
19	リュウキュウベニイトトンボ	20	ムスジイトトンボ	21	コフキヒメイトトンボ
全島 ○ O.T 34~47 4~10		請以外の全島 ○ O.T 30~39 4~10		全島 ○ K.K 21~27 3~10	
複眼は明るい緑色で、成熟したオスは腹部が赤い。環境悪化でだいぶ減ったが、今でもふつうにみられる。		沿岸沿いの平地の水草が生える開けた池や沼にすむ。成熟したオスは鮮やかな水色。奄美大島では北部に限られたところにしかない。		オスははじめ緑色で腹部の先がオレンジ色だが、成熟すると胸部に白い粉をふく。メスははじめ全身赤いが、成熟すると緑色になる。	
22	アオモンイトトンボ	23	アジアイトトンボ	24	オオヤマトンボ
全島 ○ Y.K 29~38 3~11		大島・加・与路・与論・沖・徳 ○ M.K 24~34 3~10		喜・大島・与路・徳・沖 ○ O.T 78~92 5~9	
奄美では一番よく見られるイトトンボ。メスははじめ全身オレンジ色だが成熟すると緑を帯びたかっ色になる。		水草のはえる湿地、池や沼にすみ日本全土に広く見られる。よく似たアオモンイトトンボよりも小さく細い。		メスの方が大きくなる。胸部に金属のようにキラキラと光る緑色のもようがある。	
25	オキナワチョウトンボ	26	ハネナガチョウトンボ	27	オオキイロトンボ
与論以外の全島 ○ 33~45 6~9		大島 ○ Y.K 39~47 6~8		大島・徳 ○ O.T 52~59 5~9	
翅には茶色と黄色のもようがあり、もようは個体によって違う。メスの翅の先端は透明。		翅の先と付け根に紫色に輝く藍色のもようがある。現在奄美大島の一部でしかほんしよく確認されていない。		翅を含めてほぼ全身が黄色がかったかっ色であり、奄美大島では1993年にはじめて記録され、ほぼ毎年見かけるようになった。	

28	ハネピロトンボ	29	アオビタイトンボ	30	オオメトンボ
全島	○ Y.K 51~58 6~10	大島・喜・与路・徳	○ Y.K 31~43 6~10	与論以外の全島	○ O.T 51~58 6~10
成熟したオスの腹部は赤く、その先の方は黒い。名前の通り後ろ翅は幅広く、その付け根にはかっ色のもようがある。		頭部のひたい部分が青い。成熟したオスは胸部と腹部に白い粉をふき、シオカラトンボに似るが、本種の方が小さいのでくべつ区別できる。		森に囲まれた池や沼、水路などにすむ。朝夕の薄暗い時間帯に、水面近くをよく飛び回る。複眼はまつ茶のような緑色をしている。	
31	コシブトンボ	32	タイリクショウジョウトンボ	33	ウスバキトンボ
喜・大島・請・与路・徳	○ 28~30 5~10	全島	○ Y.K 38~55 4~11	全島	○ 44~54 3~12
胸部や腹部にモザイクのようなもようがあり、オスは全身水色になる。かつては広く分布していたが、ほとんどの場所でないなくなった。		メスや若いオスは淡い茶色で、成熟したオスは全身があざやかな赤色になる。		世界の熱帯・亜熱帯に広く分布し、毎年南から渡ってきてはんしよくしながら北へ分布を広げていくが、冬には死にたえてしまう。	
34	ベニトンボ	35	オオハラピロトンボ	36	ハラボソトンボ
与論以外の全島	○ Y.K 32~43 5~10	大島・徳・沖	○ Y.K 39~46 6~9	全島	○ T.H 48~62 5~10
池や沼、川の上などにすむ。成熟したオスは全身が紫がかった紅色になり、メスは全身オレンジ色で腹部に黒いもようがある。		森に囲まれた湿地、池や沼、水たまりなどにすむ。名前の通り腹部は幅広く、成熟したオスでは赤くなる。メスの腹部はオレンジ色。		開けた湿地、池や沼、田んぼなどにすむ。名前の通り腹部は細い。シオカラトンボの仲間だが、オスは成熟しても青白くならない。	
37	シオカラトンボ	38	カトリヤンマ	39	マルタンヤンマ
全島	○ Y.K 47~61 5~10	大島・加・請・与路・徳・沖	○ Y.K 66~77 6~10	大島	× 65~84 6~10
オスメスともに未熟なうちはオレンジ色であるが、成熟したオスや年老いたメスは胸部・腹部に白い粉をふく。		森に囲まれた湿地や水たまりなどにすむ。胸部はオスメスともにあざやかな緑色になる。朝夕の薄暗い時間帯に活動する。		成熟したオスの複眼と体のもようは美しいコバルトブルーになり、メスでは複眼と体のもようは緑色に、翅の根元はかっ色になる。	
40	リュウキュウカトリヤンマ	41	ホソミオツネトンボ	42	ヒメイトンボ
全島	○ Y.K 68~77 ほぼ年中	大島	○ K.K 35~42 3~12	大島・徳・沖	× 19~27 ほぼ年中
森に囲まれた湿地、池や沼などにすむ。カトリヤンマのように薄暗い時間帯に活動する。全身は緑をおびたかっ色。		低い山の水草がたくさんはえる池や沼などにすむ。体は冬はかっ色で、春になると全身青くなる。成虫のまま冬を越す。		コフキヒメイトンボに似るが、オスは成熟しても白い粉をふかない。日本で最も小さなトンボであり、奄美大島では絶滅した。	
43	トビロヤンマ	44	ヒメトンボ	45	ナツアカネ
大島・与路・徳・与論	× 63~73 年中	全島	○ Y.K 23~26 2~12	大島・加	○ M.K 33~41 6~11
成虫は夕方によく活動し、オスメスともに翅も含めて全身が薄いかっ色（とび色）になる。奄美大島では絶滅したが、他の島では不明。		池や沼、田んぼなどにすむ。地面すれすれを飛ばす。メスや若いオスは黄色に黒い模様があるが、成熟したオスは全身青白い粉をふく。		平地の池や沼、田んぼなどにすむ。オスは全身があざやかな赤色になる。奄美では絶滅したようである。	
46	アメイトンボ	47	コモンヒメハネピロトンボ	48	ホソミイトンボ
喜・徳・沖・与論	× 42~48 年中	大島・与路・徳	× 52~55 年中	沖	× 28~37 3~12
平地の池や沼などにすむ。オスメスともに後ろ翅の一部がかっ色をしており、オスは全身が赤みがかった色。		平地の開けた池や沼などにすむ。ときどき見かけるが、日本にはまだ定着していない。		平地の水草が多くはえる池や沼などにすむ。胸部と腹部の先が青い。沖永良部島で記録はあるが、定着していないと思われる。	
49	ヤブヤンマ	50	コフキトンボ	51	タイリクアキアカネ
大島・加・与路・徳	○ O.T 79~93 5~8	喜・大島・沖	○ M.K 37~48 5~10	与路・徳	× 31~42 9~10
主に朝夕の薄暗い時間に活動する。成熟したオスの成虫の複眼と腹部の付け根の下側が青色になる。		池や沼、川の上などにすむ。オスはシオカラトンボに似て全身に白い粉をふく。メスは翅にかっ色の帯もようがある個体が多い。		ヨーロッパから中国などに広く分布しており、秋になると大陸の方から飛んでくる。アキアカネに似ているが、やや小さい。	
52	オナガアカネ	53	ウミアカトンボ	54	スナアカネ
与路・徳	× 29~41 9~11	大島	○ K.K 41~45 7月ごろ	大島・徳	× 25~38 4~12
タイリクアキアカネと同じく、日本には秋になると大陸の方から飛んでくる。		オスメスとも腹部は赤く、中央に黒いスジが入る。奄美大島笠利で数年前に2年連続で観察されたが、現在いるかどうか不明。		インドや中国から南ヨーロッパ、アフリカにかけて広く分布する。日本には9月ごろときどき飛んでくるくらいで、定着はしていない。	
55	アキアカネ	56	ヒメハネピロトンボ	 溪流にすむトンボ  わき水がしたり落ちていたり、小さな流れのある傾斜にすむトンボ  池や沼にすむトンボ	
大島	× 22~26 5~12	大島	× 30~33 3~12		
北海道から九州まで広く日本に分布する。奄美大島では1988年と2014年にオス1個体の記録がある。		沖縄の八重山諸島に分布する。大きな翅と後ろ翅のかっ色もようが目立つ。奄美大島では1988年にオス1個体の記録がある。			

※ 亜種 同じ種でも、場所によってもようや形などに違いがある場合、「亜種」として区別する場合があります。

2023年3月 発行

制作：奄美自然体験活動推進協議会・環境省奄美野生生物保護センター

協力：写真提供：岡崎 幹人氏（鹿児島昆虫同好会）・桶田 太一氏（写真家）・金井 賢一氏（鹿児島昆虫同好会）・鳥飼 久裕氏（奄美野鳥の会）・境 優氏（国立環境研究所）松比良 邦彦氏（鹿児島昆虫同好会）・山室 一樹氏（奄美野鳥の会）

参考・引用文献：杉村 光俊ほか 原色日本トンボ幼虫・成虫大図鑑（1999）・尾園 暁ほか ネイチャーガイド日本のトンボ改訂版（2021）・鷲谷 いつみほか ネイチャーガイド奄美大島のトンボ

奄美群島のトンボ写真コレクション



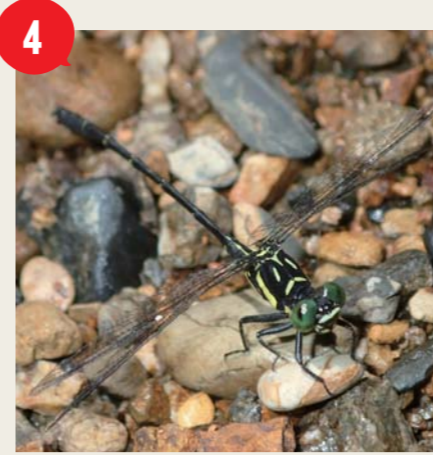
リュウキュウハグロトンボ



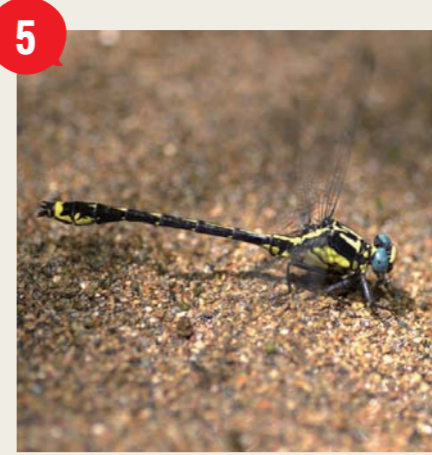
アマミヤンマ



ヒメミルンヤンマ



チビサナエ



アマミサナエ



オニヤンマ



ミナミヤンマ



リュウキュウトンボ



アマミテグオトンボ



アマミルリモントンボ



台湾シオカラトンボ



オシオカラトンボ



トクノシマトグオトンボ



ギンヤンマ



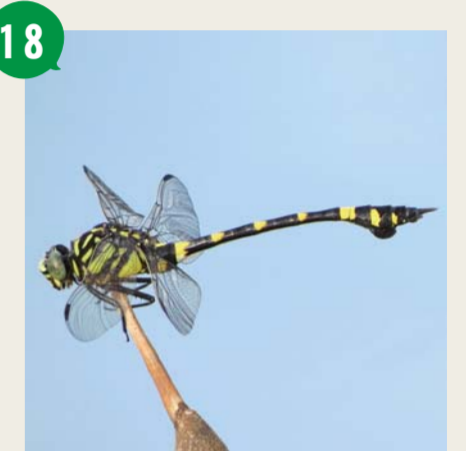
クロシギンヤンマ



オオギンヤンマ



リュウキュウギンヤンマ



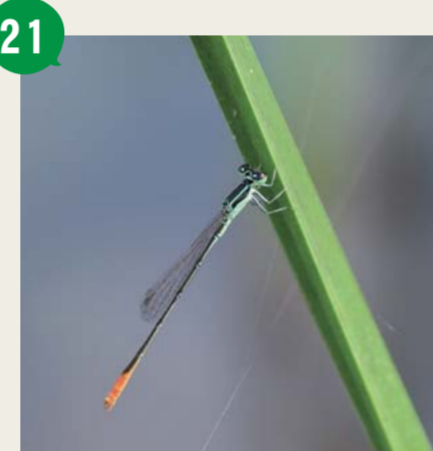
台湾ウチワヤンマ



リュウキュウベニイトンボ



ムスジイトンボ



コフキメイトンボ



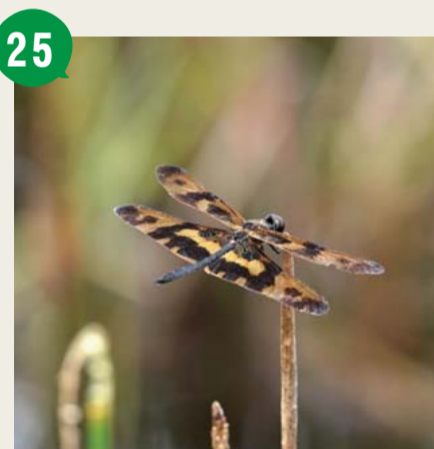
アオモンイトンボ



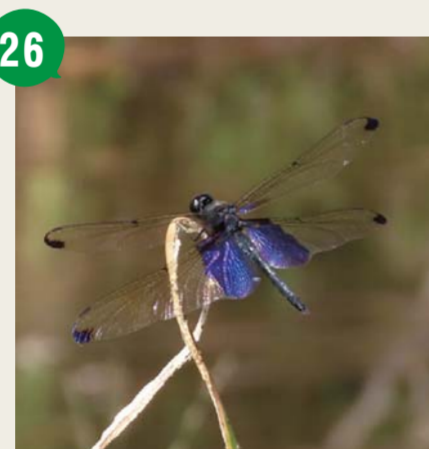
アジアイトンボ



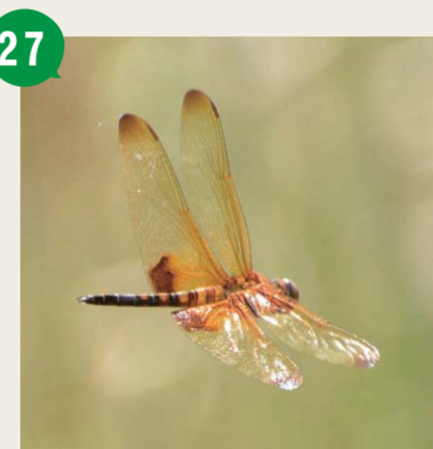
オオヤマトンボ



オキナワチョウトンボ



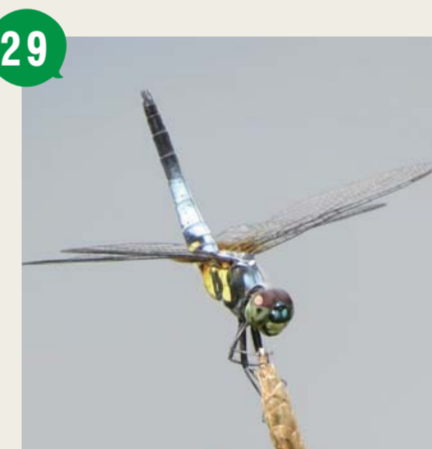
ハネナガチョウトンボ



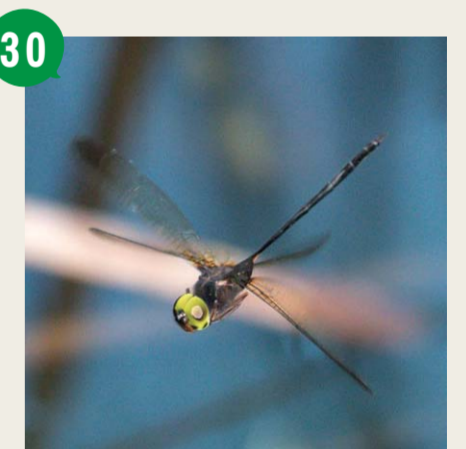
オオキイロトンボ



ハネピロトンボ



アオヒバイトンボ



オオメトンボ



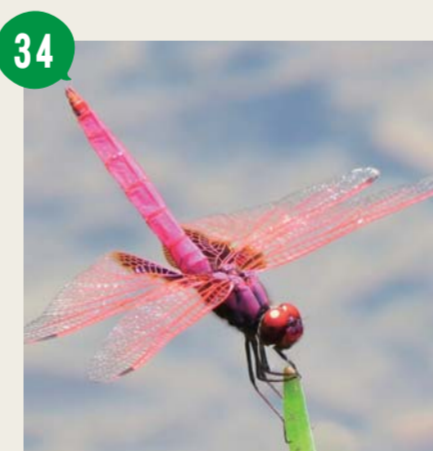
コソウトンボ



タイリクショウジョウトンボ



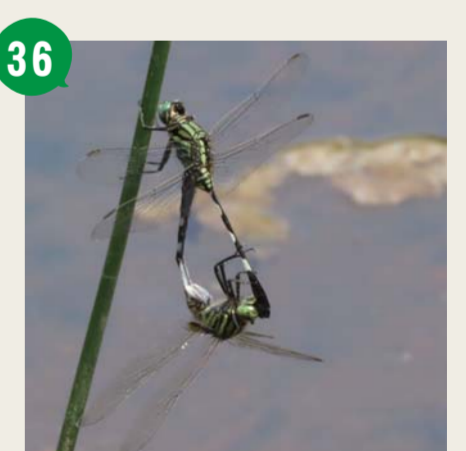
ウスバキトンボ



ベニトンボ



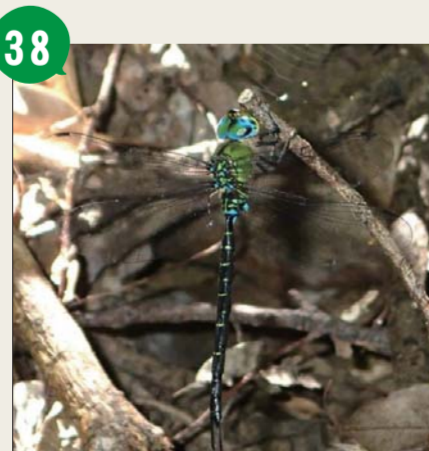
アオハラピロトンボ



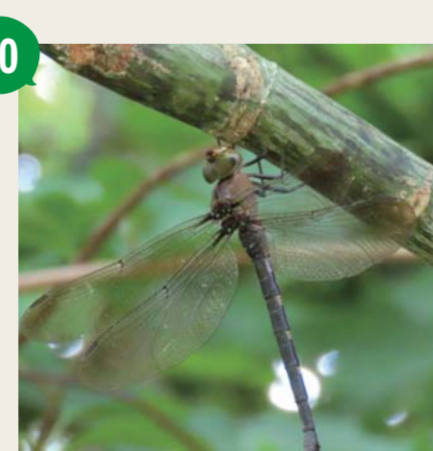
ハラボソトンボ



シオカラトンボ



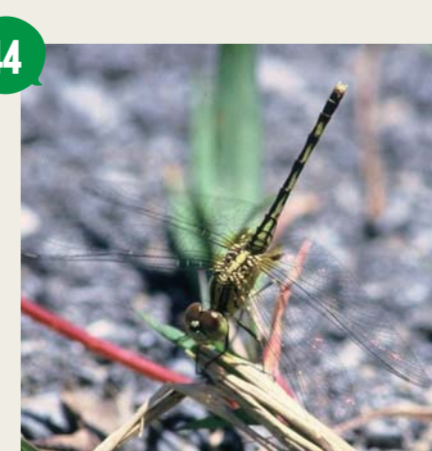
カトリヤンマ



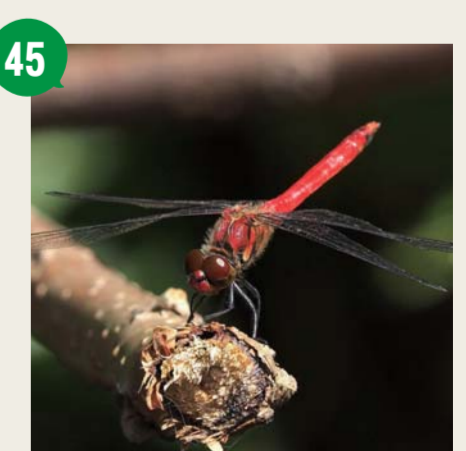
リュウキュウカトリヤンマ



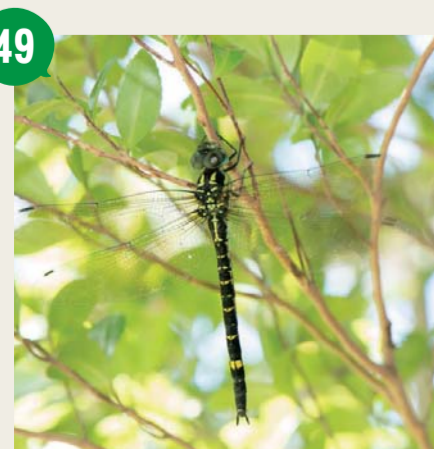
ホソミツネトンボ



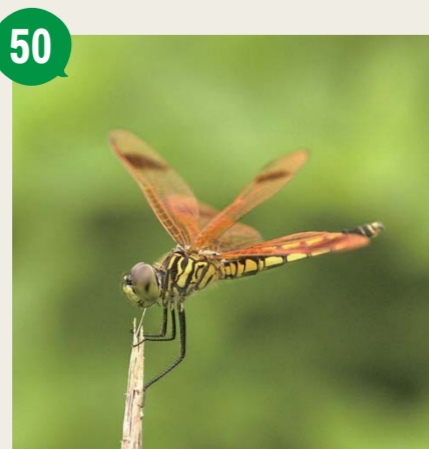
ヒメトンボ



ナツアカネ



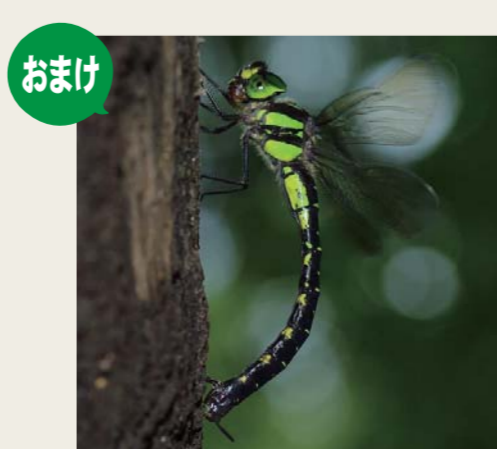
ヤブヤンマ



コフキトンボ



ウミアカトンボ



おまけ

アマミヤンマ産卵シーン (松比良 邦彦氏 提供)

この写真はアマミヤンマのメスが産卵しているとても貴重な写真なんだ!
水中や植物にだけでなく、木に産卵するトンボもいるんだね!